

## 2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	視能訓練士学科3年制		科目区分	専門分野	授業の方法	講義実習
科目名	神経眼科学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期 火4, 5限	教室名	
担当教員	黒川歳雄					
実務経験とその関連資格	視能訓練士として大学病院で斜視弱視検査、眼底写真、神経眼科検査などを中心にして12年勤務。その後総合病院で一般眼科診療に携わり画像検査を軸に全般的な検査を担当。視能訓練士免許(実務28年)。日本眼科学会会員、日本神経眼科学会会員。					
《授業科目における学習内容》						
神経眼科疾患の基礎的な知識を整理し、神経眼科疾患に対する検査のアプローチ、診断につながる所見のとり方等を学ぶ						
《成績評価の方法と基準》						
本試験および小テスト(割合8:2)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
『視能学』、『視能矯正学』						
《授業外における学習方法》						
事前に『視能学』の関連する項目を事前に読んでおくこと。毎回、授業終了後プリントの内容を復習しておくこと。						
《履修に当たっての留意点》						
臨床の場で「使える」知識となることを想定し、主体的に授業に参加し吸収してもらいたい。疑問に感じたことや興味深く感じたことなどあれば直接でもよいし配布のワークシートなどを通してコメントを出していただきたい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	苦手意識や先入観を除去して今後の授業に向き合えるようになる		プリント	視路や視神経について前の学年で習ったことを復習しておくこと	
	各コマにおける授業予定	神経眼科概要				
第2回	授業を通じての到達目標	所見の引き出し方を掴むことができる		プリント・視能学	復習(一過性視力障害)	
	各コマにおける授業予定	問診と神経外来				
第3回	授業を通じての到達目標	視路に関する視野を読めるようになる		プリント・視能学	前回復習	
	各コマにおける授業予定	視路と視野 I				
第4回	授業を通じての到達目標	視覚路の4構成を学び部位ごとの特性を理解できる		プリント・視能学	前回復習	
	各コマにおける授業予定	視路と視野 II				
第5回	授業を通じての到達目標	視神経や視交叉の障害の所見がわかるようになる		プリント・視能学	小テスト(視力障害・頭痛)	
	各コマにおける授業予定	視路と視野 III				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	視索～後頭葉障害での視野パターンがわかるようになる	プリント・視能学	復習(視路の異常パターン)
	各コマにおける授業予定	視路と視野 IV		
第7回	授業を通じての到達目標	調節や瞳孔疾患を知るため自律神経についての理解を確かにする	プリント	小テスト(視路と視野)
	各コマにおける授業予定	自律神経の働き・瞳孔、調節および眼瞼		
第8回	授業を通じての到達目標	調節障害の病理と検査法を理解できるようになる	プリント・視能学	前回復習
	各コマにおける授業予定	調節の異常		
第9回	授業を通じての到達目標	ふつうの瞳孔反応とふつうでない瞳孔とを見分けることができる	プリント	前回復習
	各コマにおける授業予定	瞳孔の異常 I		
第10回	授業を通じての到達目標	瞳孔の検査法をおぼえる	プリント・視能学	復習(瞳孔検査の手技)
	各コマにおける授業予定	瞳孔の検査		
第11回	授業を通じての到達目標	瞳孔検査を実践し使えるようにする	プリント	瞳孔検査と評価を実習
	各コマにおける授業予定	瞳孔検査実習		
第12回	授業を通じての到達目標	瞳孔疾患を体系的に理解する	プリント・視能学	復習(瞳孔疾患)
	各コマにおける授業予定	瞳孔の異常 II		
第13回	授業を通じての到達目標	患者の外観や検査所見から異常に気付く感覚を身につける	プリント	小テスト(瞳孔疾患)
	各コマにおける授業予定	眼瞼の検査		
第14回	授業を通じての到達目標	眼瞼下垂を示す疾患と機序を理解する	プリント・視能学	眼瞼下垂・突出の検査実習
	各コマにおける授業予定	眼瞼下垂や眼球突出を示す疾患		
第15回	授業を通じての到達目標	これまでの内容を反芻し消化する	プリント	全体の復習
	各コマにおける授業予定	前期復習		